

Weekly Report

山梨中央ロータリークラブ

Rotary International District 2620
Yamanashi Chuo Rotary Club 2017-2018

会長 田中 雅貴 副会長 林 美喜枝
幹事 原田 哲 副幹事 田中 雅承
会計 笹本 哲翁 会報 小池 章治

事務所 〒409-3812 山梨県中央市乙黒158-2
(山梨ビジネスパーク(株)カルク内)

TEL 055-273-5344 URL <http://yamachuo-rc.net/>
FAX 055-273-8010 E-mail rotary@yamachuo-rc.net

【例会日】 毎週金曜日 12:30~13:30
【例会場】 (株)カルク (055-273-5344)

Rotary 



ロータリー：
変化をもたらす

2017~2018 R.I会長
イアン H.S. ライズリー
第2620地区ガバナー 松村 友吉

2017年 8月 24日 第1778回例会

本日のプログラム

第19回たべもの異文化交流会

会長挨拶

「沖縄の伝統行事『シーミー』」

会長 田中 雅貴

みなさんこんにちは。峡中ジュニアサッカーお疲れ様でした。原田幹事はじめ皆様のご協力により、無事に終わることができました。ありがとうございました。



さて本日は沖縄の伝統行事についてお話し

したいと思います。

沖縄ではシーミー（清明祭）という旧暦の伝統行事があります。シーミーとは、清明祭で先祖供養の行事です。二十四節気の清明の節の期間に行う行事でもあり、中国ではお墓の掃除をしたり墓参りをする日です。

沖縄のシーミーも親戚や家族が集まり、お墓参りをし掃除をしたり、ご先祖様のお墓の前で、ビニールシートをひいて、ピクニックのご馳走（お肉や、てんぷら、お菓子）などを食べたり、飲み物を飲んだりし、ワイワイ皆で楽しめます。中には三味線を弾いて、歌っている人たちもいます。

特に、教科書などから学んだ事ではないのですが、ご先祖様に感謝するという気持ちを、このシーミーという行事では伝えているように感じます。また、親戚やいとこなどが集まるので、近況報告を聞いたり、世間話をしたりして、つながりを深める場となっています。

そしてシーミーをするために沖縄のお墓は非常に大きなものが多いです。金額も500万円以上するとのことで、4畳半のプレハブ小屋ほどあります。

沖縄旅行の際、お墓を見つけてみてください。結構、至る所にあります。

今日の会長挨拶は以上です。

幹事報告

幹事 原田 哲

1. 早朝例会ご苦労様です。

本日は、例会後に「第26回峡中ジュニアサッカーフェスティバル」が行われますので、宜しくお願い致します。

2. 次回、8月24日(木)は午後4時30分集合で「国際たべもの異文化交流会」の為、「納涼夜間例会」となります。

この為8月25日(金)の例会は振替休会となります。お間違えの無い様、宜しくお願い致します。

3. 例会変更のお知らせ

☆葦崎ロータリークラブ☆

8月11日(金)は「祝日・特別休会」

8月18日(金)の例会は「野球大会例会」の為 日時・会場の変更

日 程：8月19日(土)

点 鐘：午前8時

会 場：「葦崎市立葦崎中学校

校庭」

(第26回中学生招待野球大会開催)

☆北杜ロータリークラブ☆

8月16日(水)は「特別休会」

8月30日(水)の例会は「親睦合同例会」の為 日時・会場の変更

(新作花火大会見物)

日 程：9月2日(土)

点 鐘：午後5時30分

会 場：「諏訪湖畔ホテル」

前回の例会記録

第1777回 出席報告

会員数	免除	出席者	欠席者	出席率	メイクアップ	前回の修正出席率
11名	0名	10名	1名	90%	2名	100%

届出欠席者 田中 雅貴君

届出失念者 なし

出席免除者 なし

メイクアップ 小池 章治君 原田 哲君

ビジター 中央市市長 田中 久雄様

備考 「第26回峡中ジュニアサッカーフェスティバル」開催

ニコニコ BOX

・なし

★紙上卓話★

『心から笑うためにチャレンジしよう(1)』

高見 のっぽ先生

皆さんは「笑顔」って、どんなものだと思いますか?いやいや、そんなにムズカシイ顔をして考えることでもないですよ。

笑顔って、誰かと仲良くなるための「あいさつ」なんです。人間は決して一人では生きてはいけません。だから、大きくなるにつれて、知らない人達の中に入れてもらわなければならない。その時に大切なのは、ニコリ笑って、相手に好意と共感を示すこと。相手が笑顔を返してくれば、仲良くなれるし、自分も相手もうれしくなります。

—無理してまで笑うことはない—

僕があいさつとしての笑顔を学んだのは、ほんのおチビさんだった頃。僕は芸人だった父のもと、京都・太秦の役者長屋に生まれ、四歳の時に東京・向島の長屋に移りました。そこでは両親をはじめ、周りの大きい人(大人)から「礼儀正しくしなさい」「あいさつはちゃんとしなさい」と厳しく教えられました。だから、誰かが家の扉を叩くと、おチビさんは「ようこそいらっしゃいました。ご用件はなんでしょう?」なんて言いながら、三つ指ついて笑顔でお出迎え。僕にとってそれは、礼儀として当たり前のことだったのです。

大きくなってからもそれは変わりません。心が苦しい時も、お客さまの前に出れば、楽しんでもらうために、パッと笑顔になる。

とは言いつつ、「できるかな」の笑顔は、ホンモノの笑顔でした。僕は根っからの不器用で、工作が大の苦手。だから、いつも一生懸命だったし、上手に作れた時は、心の底からうれしかった。(続く)

次回のプログラム 9月1日(金)

卓話 公共イメージ向上委員会